

イ 動植物の生息または生育、植生及び生態系の状況

(ア) 植 物

a 植物種及び植物群落の状況

事業実施想定区域及びその周辺における植物種の状況は、文献その他の資料を収集・整理することにより把握した。

(a) 植物種

事業実施想定区域及びその周辺における植物種について、文献その他の資料により 25 科 37 種を確認した^{33) 34) 35) 36)}。植物種の概要を表 3-2-2-3 に示す。

確認種数は、大葉シダ植物 1 科 1 種、基部被子植物 1 科 1 種、単子葉植物 7 科 11 種、真正双子葉植物 16 科 24 種であった。

表 3-2-2-3 植物種の概要

分類群	主な確認種
大葉シダ植物	エゾフユノハナワラビ 【1 科 1 種】
基部被子植物	キタコブシ 【1 科 1 種】
単子葉植物	コウライテンナンショウ、オニドコロ、エンレイソウ、オオバナノエンレイソウ、オオウバユリ、ドイツスズラン、スズラン、オオアマドコロ、ガマ、ノガリヤス、ススキ 【7 科 11 種】
真正双子葉植物	カツラ、ヤマブドウ、ヤマハギ、アズキナシ、ズミ、ノイバラ、ヤマグワ、ニシキギ、ツリバナ、マユミ、ヌルデ、トチノキ、オカトラノオ、サルナシ、ヘクソカズラ、アカネ、スズサイコ、ウメモドキ、ツリガネニンジン、オトコヨモギ、エゾノコンギク、シラヤマギク、オオハンゴンソウ、ケヤマウコギ 【16 科 24 種】

(b) 植物群落

事業実施想定区域及びその周辺における植物群落の分布状況を、図 3-2-2-6 の現存植生図にまとめた^{37) 38)}。

事業実施想定区域及びその周辺は、工場地帯や住宅地となっており、自然植生は見られなかった。また、事業実施想定区域の南西に位置する畑雑草群落は航空写真(令和 4 年現在)で確認すると、現在は住宅や工場が建設されており、その面積は小さくなっている。

33) 札幌市「札幌市内の各種動植物情報(2016年)」

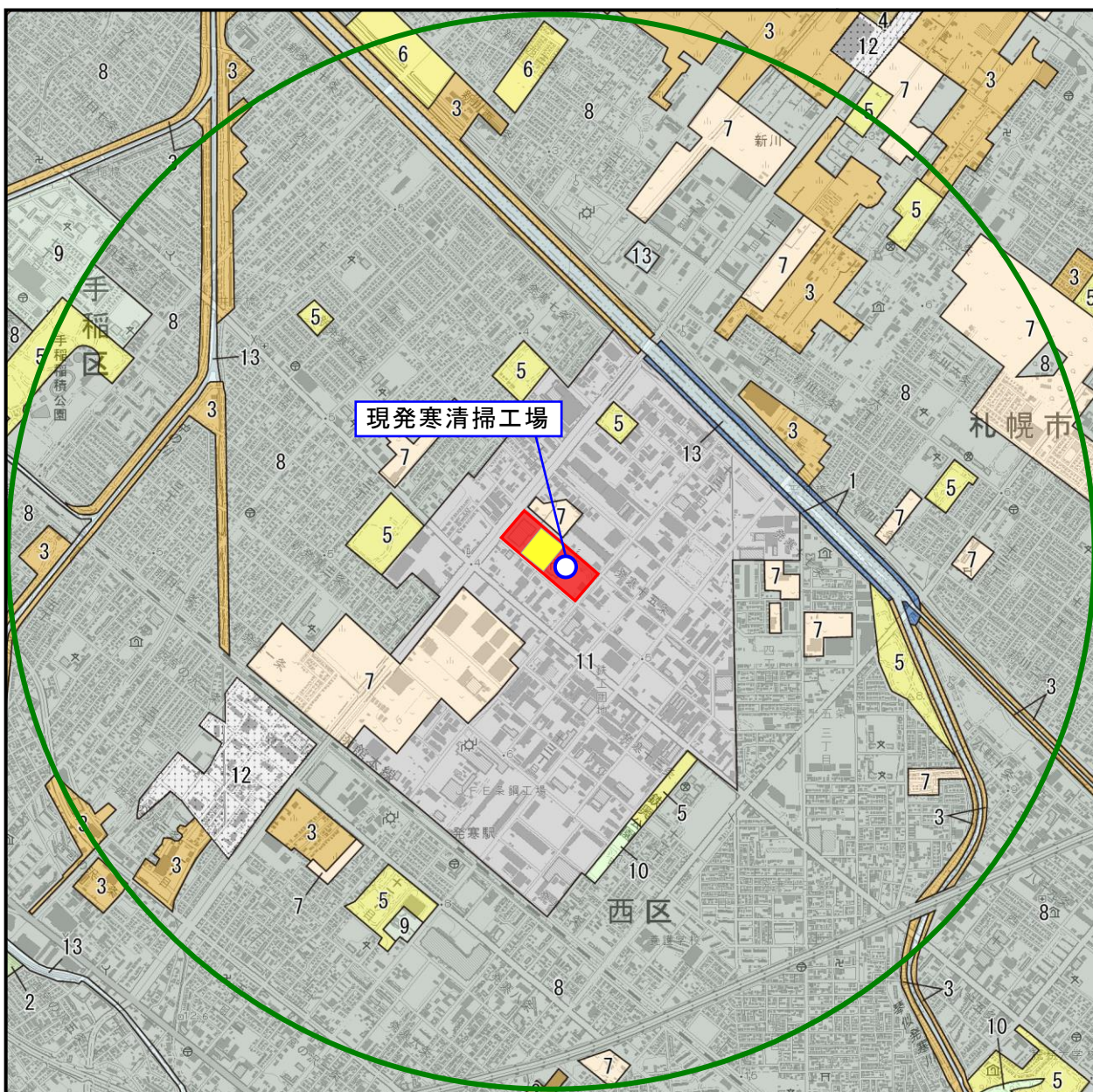
34) 札幌市「札幌市内の各種動植物情報(2017年)」

35) 札幌市「さっぽろ生き物さがし 2018~2021」

36) 北海道植物友の会「10月の観察会 手稲区富丘西公園-苦多尼訶 30-」(2012)

37) 環境省「第6回自然環境保全基礎調査 植生・日本の巨樹・巨木林フォローアップ調査 平成11年~平成16年」

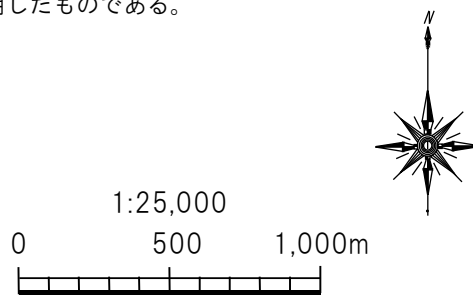
38) 環境省「第7回自然環境保全基礎調査 植生 平成17年~」



凡 例			
	事業実施想定区域		
	影響想定地域(動物,植物,生態系)		
	区 界		
	現 発 寒 清 掃 工 場		
	新工場建設候補地 (現西清掃事務所及び市道の一部)		
1	ヤナギ高木群落(Ⅳ)	8	市街地
2	シラカンバー ミズナラ群落	9	緑の多い住宅地
3	オオヨモギ群落	10	残存・植栽樹群をも った公園、墓地等
4	ニセアカシア群落	11	工場地帯
5	ゴルフ場・芝地	12	造成地
6	牧草地	13	開放水域
7	畑雑草群落		

図 3-2-2-6 現存植生図

※国土地理院発行の電子地形図 25,000 (オンデマンド版) の地形図(令和 2 年 11 月 17 日発行)を使用したものである。



出典:「第 6 回～第 7 回自然環境保全基礎調査(現存植生図)(平成 11 年～平成 17 年)」(環境省)より作図

b 重要な植物の分布状況

植物の重要な種は文献その他の資料により確認された種のうち、表 3-2-2-4 に示す法令及びレッドリスト等により選定されている種とした。

表 3-2-2-4 重要な植物の選定基準

選定基準		カテゴリー
A	文化財保護法（昭和 25 年法律第 214 号）	特別天然記念物（特天）
		天然記念物（国天）
	北海道文化財保護条例（昭和 30 年条例第 83 号）	天然記念物（道天）
	札幌市文化財保護条例（昭和 34 年条例第 31 号）	市指定文化財（市文）
B	絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成 4 年法律第 75 号）	特別国内希少野生動植物種（特内）
		国内希少野生動植物種（国内）
		緊急指定種（緊急）
C	北海道生物の多様性の保全等に関する条例（平成 25 年条例第 9 号）	指定希少野生動植物種（指定）
D	「環境省レッドリスト 2020」（環境省）	絶滅（EX）
		野生絶滅（EW）
		絶滅危惧 I 類（CR+EN）
		絶滅危惧 I A 類（CR）
		絶滅危惧 I B 類（EN）
		絶滅危惧 II 類（VU）
		準絶滅危惧（NT）
		情報不足（DD）
		絶滅のおそれのある地域個体群（LP）
E	「北海道の希少野生生物－北海道レッドデータブック 2001－」（北海道）	絶滅（Ex）
		野生絶滅（Ew）
		絶滅危惧 I 類（Cr+En）
		絶滅危惧 I A 類（Cr）
		絶滅危惧 I B 類（En）
		絶滅危惧 II 類（Vu）
		準絶滅危惧（Nt）
		留意（N）
		情報不足（Dd）
絶滅のおそれのある地域個体群（Lp）		
F	「札幌市版レッドリスト 2016」（札幌市）	今見られない（EX+EW）
		絶滅危惧 I A 類（CR）
		絶滅危惧 I B 類（EN）
		絶滅危惧 II 類（VU）
		準絶滅危惧（NT）
		留意（N）

(a) 植物種

事業実施想定区域及びその周辺における重要な植物種については、文献その他の資料により表 3-2-2-5 に示す 2 科 2 種を確認した³⁶⁾。

既存資料によると、スズラン、スズサイコの 2 種は、事業実施想定区域外の富丘西公園で確認されている。これらは、事業実施想定区域及びその周辺に生息している可能性は低い³⁷⁾。

表 3-2-2-5 文献資料による重要な種一覧（植物）

科名	和名	選定基準					
		A	B	C	D	E	F
クサスギカズラ	スズラン						N
キョウチクトウ	スズサイコ				NT	Nt	VU
2 科	2 種	0 種	0 種	0 種	1 種	1 種	2 種

注)種名、学名及び種の配列は原則として、「日本産シダ植物標準図鑑 I・II」(学研プラス,2016)及び「改訂新版 日本の野生植物 1~5」(平凡社,2015~2017)に準拠した。

(b) 植物群落

事業実施想定区域及びその周辺において、「第 2 回自然環境保全基礎調査」等で選定された特定植物群落は存在しない^{36) 37) 38)}。

36) 北海道植物友の会「10月の観察会 手稲区富丘西公園-善多尼訶 30-」(2012)

37) 環境省「第2回自然環境保全基礎調査 植生・特定群落 昭和53年~昭和54年」

38) 環境省「第3回自然環境保全基礎調査 植生・特定群落 昭和58年~昭和62年」

(イ) 動物

a 動物種及び地域個体群の状況

事業実施想定区域及びその周辺における動物種の状況は、文献その他の資料を収集・整理して把握した。

(a) 動物種

事業実施想定区域及びその周辺に生息する動物について、文献その他の資料により、表3-2-2-6のとおり、哺乳類3目6科8種、鳥類15目38科114種、両生類1目1科1種、爬虫類1目1科1種、昆虫類8目18科43種、魚類6目10科27種、底生動物8目12科12種を確認した^{33)~35)、37)~46)}。

表3-2-2-6 動物種の概要

分類群等	主な確認種
哺乳類	ハツカネズミ、ドブネズミ、エゾヒグマ、アライグマ、エゾタヌキ、キタキツネ、アメリカミンク、エゾシカ 【3目6科8種】
鳥類	キジ(コウライキジ)、マガモ、カイツブリ、キジバト、アオサギ、バン、カッコウ、アマツバメ、オオジシギ、オオセグロカモメ、トビ、アオバズク、カワセミ、アカゲラ、チゴハヤブサ、モズ、ハシボソガラス、ククイタダキ、シジュウカラ、ヒバリ、イワツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、センダイムシクイ、メジロ、シマセンニュウ、オオヨシキリ、キレンジャク、ゴジュウカラ、キバシリ、ムクドリ、カワガラス、クロツグミ、スズメ、ハクセキレイ、ベニマシコ、アオジ等 【15目38科114種】
両生類	ニホンアマガエル 【1目1科1種】
爬虫類	ヒガシニホントカゲ 【1目1科1種】
昆虫類	ヒメフタオカゲロウ、オツネントンボ、オオルリボシヤンマ、ルリボシヤンマ、モイワサナエ、オニヤンマ、シオカラトンボ、ナツアカネ、ノシメトンボ、カンタン、サッポロフキバツタ、ミカドフキバツタ、トノサマバツタ、ヒナバツタ、コエゾゼミ、エゾハルゼミ、センブリ、ミヤマクワガタ、コガタシマトビケラ、カラスアゲハ、キアゲハ、モンキチョウ、スジグロシロチョウ、モンシロチョウ、ベニシジミ、コムラサキ、クジャクチョウ等 【8目18科43種】
魚類	スナヤツメ北方種、タイリクバラタナゴ、エゾウグイ、ウグイ、モツゴ、フクドジョウ、アユ、アメマス、ニジマス、サケ、サクラマス(ヤマメ)、ニホンイトヨ、トミヨ、ハナカジカ、アシシロハゼ、ヌマチチブ、ウキゴリ、シマウキゴリ、ピリンゴ、ジュズカケハゼ、ヌマガレイ等 【6目10科27種】
底生動物	ナミウズムシ、カワニナ、サカマキガイ、ヒラマキミズマイマイ、イトミミズ、シマイシビル、トゲオヨコエビ、ニッポンヨコエビ、ミズムシ(甲)、ヌマエビ、スジエビ、モクズガニ 【8目12科12種】

- 33) 札幌市「札幌市内の各種動植物情報(2016年)」
- 34) 札幌市「札幌市内の各種動植物情報(2017年)」
- 35) 札幌市「さっぽろ生き物さがし2018~2021」
- 37) 環境庁「第2回自然環境保全基礎調査 昭和53年~昭和54年」
- 38) 環境庁「第3回自然環境保全基礎調査 昭和58年~昭和62年」
- 39) 環境庁「第4回自然環境保全基礎調査 昭和63年~平成4年」
- 40) 環境省「第5回自然環境保全基礎調査 平成5年~平成10年」
- 41) 環境省「第6回自然環境保全基礎調査 平成11~16年度」
- 42) 環境省「第7回自然環境保全基礎調査 平成17年~」
- 43) 札幌市「札幌の川で見られる主な魚」
- 44) 北海道「北海道環境データベース」
- 45) (財)札幌市公園緑化協会「北海道札幌市およびその近郊におけるピリンゴ(*Gymnogobius breunigii*)とジュズカケハゼ(*Gymnogobius castaneus*)の分布-札幌市豊平川さけ科学館研究報告(2012年度)-」
- 46) (財)札幌市公園緑化協会「北海道札幌市およびその近郊における淡水魚の分布-2002~2015年における採集記録-札幌市豊平川さけ科学館研究報告(2015年度)-」

b 重要な種（動物）の分布状況

動物の重要な種は文献その他の資料により確認された種のうち、表 3-2-2-7 に示す法令及びレッドリスト等により選定されている種とした。

表 3-2-2-7 重要な動物の選定基準

選定基準		カテゴリー
A	文化財保護法（昭和 25 年法律第 214 号）	特別天然記念物（特天）
		天然記念物（国天）
	北海道文化財保護条例（昭和 30 年条例第 83 号）	天然記念物（道天）
	札幌市文化財保護条例（昭和 34 年条例第 31 号）	市指定文化財（市文）
B	絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成 4 年法律第 75 号）	特別国内希少野生動植物種（特内）
		国内希少野生動植物種（国内）
		緊急指定種（緊急）
C	北海道生物の多様性の保全等に関する条例（平成 25 年条例第 9 号）	指定希少野生動植物種（指定）
D	「環境省レッドリスト 2020」（環境省）	絶滅（EX）
		野生絶滅（EW）
		絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN）
		絶滅危惧ⅠA類（CR）
		絶滅危惧ⅠB類（EN）
		絶滅危惧Ⅱ類（VU）
		準絶滅危惧（NT）
		情報不足（DD）
		絶滅のおそれのある地域 個体群（LP）
E※	「北海道の希少野生生物ー北海道レッドデータブック 2001ー」 「北海道レッドリスト【両生類・爬虫類編】改訂版(2015年)」 「北海道レッドリスト【昆虫類>チョウ目編】改訂版(2016年)」 「北海道レッドリスト【哺乳類編】改訂版(2016年)」 「北海道レッドリスト【鳥類編】改訂版(2017年)」 「北海道レッドリスト【魚類編（淡水・汽水）】改訂版(2018年)」 「北海道レッドリスト【昆虫類>コウチュウ目編】改訂版(2019年)」 (北海道)	絶滅（Ex）
		野生絶滅（Ew）
		絶滅危惧Ⅰ類（Cr+En）
		絶滅危惧ⅠA類（Cr）
		絶滅危惧ⅠB類（En）
		絶滅危惧Ⅱ類（Vu）
		準絶滅危惧（Nt）
		留意（N）
		情報不足（Dd）
		絶滅のおそれのある地域 個体群（Lp）
F	「札幌市版レッドリスト 2016」（札幌市）	今見られない（EX+EW）
		絶滅危惧ⅠA類（CR）
		絶滅危惧ⅠB類（EN）
		絶滅危惧Ⅱ類（VU）
		準絶滅危惧（NT）
		情報不足（DD）
留意（N）		

※）昆虫類のうちチョウ目及びコウチュウ目については改訂版を、それ以外の目は「北海道レッドデータブック2001」（北海道,2001）によった。選定基準(カテゴリー)は、改訂版のものに準拠した。

(a) 哺乳類

文献その他の資料により確認された種のうち、重要な哺乳類については、表 3-2-2-8 に示す 1 科 1 種を確認した^{39) 40) 41) 42) 44)}。

表 3-2-2-8 文献資料及び現地確認による重要な種一覧（哺乳類）

科名	種名	選定基準					
		A	B	C	D	E	F
クマ	エゾヒグマ				LP	Lp	NT
1 科	1 種	0 種	0 種	0 種	1 種	1 種	1 種

注) 種名、学名および種の配列は、「日本産野生生物目録－脊椎動物編－」（環境庁編, 1993）に準拠した。

(b) 鳥 類

文献その他の資料により確認された種のうち、重要な鳥類について、表 3-2-2-9 に示す 11 科 15 種を確認した^{34) 35) 37) 38) 44)}。

表 3-2-2-9 文献資料及び現地確認による重要な種一覧（鳥類）

科名	種名	選定基準					
		A	B	C	D	E	F
キジ	エゾライチョウ				DD	Nt	NT
	ウズラ				VU	Nt	VU
サギ	ヨシゴイ				NT		
シギ	ヤマシギ					N	DD
	オオジシギ				NT	Nt	NT
カモメ	ウミネコ					Nt	
	オオセグロカモメ				NT	Nt	
フクロウ	アオバズク					Dd	DD
カワセミ	アカショウビン					Vu	NT
キツツキ	オオアカゲラ					Dd	N
モズ	アカモズ		国内		EN	En	EN
ヒバリ	ヒバリ						N
センニュウ	マキノセンニュウ				NT	Nt	NT
ホオジロ	ホオアカ					Nt	N
	シマアオジ		国内		CR	Cr	CR
11 科	15 種	0 種	2 種	0 種	8 種	13 種	12 種

注) 種名、学名および種の配列は、「日本鳥類目録 改訂第 7 版」（日本鳥学会編, 2012）に準拠した。

(c) 両生類

文献その他資料により確認された種のうち、重要な両生類は確認されなかった⁴⁴⁾。

- 34) 札幌市「札幌市内の各種動植物情報（2017 年）」
- 35) 札幌市「さっぽろ生き物さがし 2018～2021」
- 37) 環境庁「第 2 回自然環境保全基礎調査 昭和 53 年～昭和 54 年」
- 38) 環境庁「第 3 回自然環境保全基礎調査 昭和 58 年～昭和 62 年」
- 39) 環境庁「第 4 回自然環境保全基礎調査 昭和 63 年～平成 4 年」
- 40) 環境省「第 5 回自然環境保全基礎調査 平成 5 年～平成 10 年」
- 41) 環境省「第 6 回自然環境保全基礎調査 平成 11～16 年度」
- 42) 環境省「第 7 回自然環境保全基礎調査 平成 17 年～」
- 44) 北海道「北海道環境データベース」

(d) 爬虫類

文献その他の資料により確認された種のうち、重要な爬虫類は確認されなかった⁴⁴⁾。

(e) 昆虫類

文献その他の資料により確認された種のうち、重要な昆虫類について、表 3-2-2-10 に示す 2 科 2 種を確認した³⁵⁾。

既存資料によると、コオニヤンマ、ナツアカネの 2 種は、事業実施想定区域外の公園で確認している。

表 3-2-2-10 文献資料及び現地確認による重要な種一覧（昆虫類）

科名	種名	選定基準					
		A	B	C	D	E	F
サナエトンボ	コオニヤンマ						NT
トンボ	ナツアカネ					NT	
2 科	2 種	0 種	0 種	0 種	0 種	1 種	1 種

注) 種名、学名および種の配列は原則として、「日本産野生生物目録—無脊椎動物編Ⅱ」(環境庁,1995)、「日本昆虫目録第 2 巻～第 5 巻、第 8 巻～第 9 巻」(一般社団法人日本昆虫学会,2014～2020)、「日本産蛾類標準図鑑Ⅰ～Ⅳ」(学研,2011～2013)及び図鑑等を参考にした。

(f) 魚 類

文献その他の資料により確認された種のうち、重要な魚類について、表 3-2-2-11 に示す 8 科 9 種を確認した^{40) 43) 44) 45) 46)}。

表 3-2-2-11 文献資料及び現地確認による重要な種一覧（魚類）

科名	種名	選定基準					
		A	B	C	D	E	F
ヤツメウナギ	スナヤツメ北方種				VU		
コイ	エゾウグイ					N	
ドジョウ	ドジョウ				NT		
アユ	アユ					Nt	
サケ	サクラマス(ヤマメ)				NT	N	N
トゲウオ	ニホンイトヨ					N	
	エゾトミヨ				VU	Nt	NT
カジカ	ハナカジカ					N	
ハゼ	ジュズカケハゼ				NT		
8 科	9 種	0 種	0 種	0 種	5 種	6 種	2 種

注) 種名、学名および種の配列は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和 3 年度版」(国土交通省河川水辺の国勢調査ホームページ)に準拠した。

35) 札幌市「さっぽろ生き物さがし 2018～2021」

40) 環境省「第 5 回自然環境保全基礎調査 平成 5 年～平成 10 年」

43) 札幌市「札幌の川で見られる主な魚」

44) 北海道「北海道環境データベース」

45) (財)札幌市公園緑化協会「北海道札幌市およびその近郊におけるピリンゴ(*Gymnogobius breunigii*)とジュズカケハゼ(*Gymnogobius castaneus*)の分布-札幌市豊平川さけ科学館研究報告(2012 年度)-」

46) (財)札幌市公園緑化協会「北海道札幌市およびその近郊における淡水魚の分布-2002～2015 年における採集記録--札幌市豊平川さけ科学館研究報告(2015 年度)-」

(g) 底生動物

文献その他の資料により確認された種のうち、重要な種（底生動物）として、表 3-2-2-12 に示す 1 科 1 種を確認した⁴⁴⁾。

表 3-2-2-12 文献資料及び現地確認による重要な種一覧（底生動物）

科名	種名	選定基準					
		A	B	C	D	E	F
ヒラマキガイ科	ヒラマキミズマイマイ				DD		
1 科	1 種	0 種	0 種	0 種	1 種	0 種	0 種

注) 種名、学名および種の配列は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和3年度版」(国土交通省河川水辺の国勢調査ホームページ)に準拠した。

44) 北海道「北海道環境データベース」

(ウ) 生態系

a 地域の生態系の分布状況

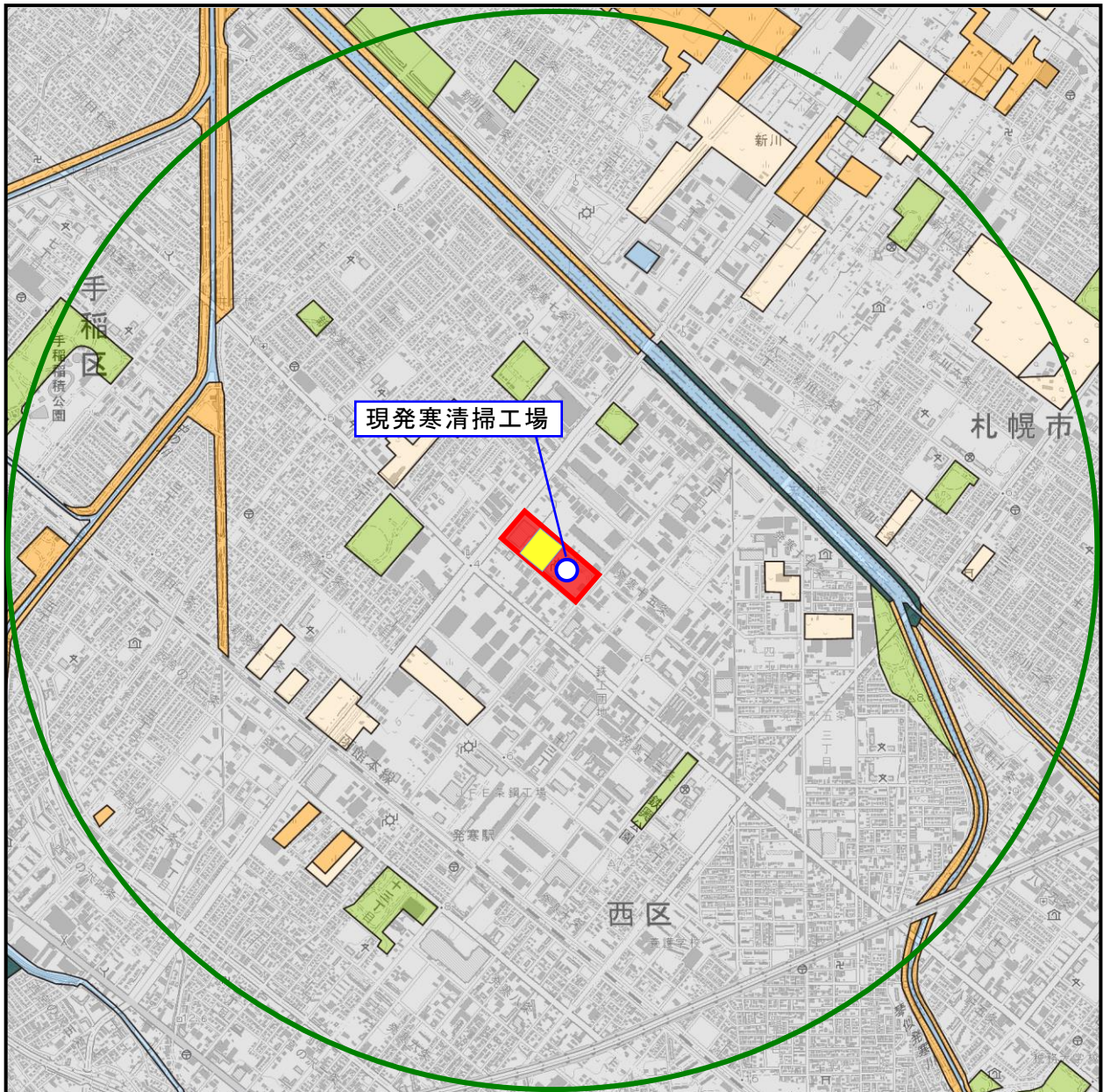
地域の生態系の分布状況を把握するため、事業実施想定区域及びその周辺に係る地域を特徴づける自然環境について、類型区分を行った。

自然環境類型区分を、表 3-2-2-13 及び図 3-2-2-7 に示す。

事業実施想定区域及びその周辺は、主に「市街地」に区分され、「耕作地等」や「牧草地」が点在している。

表 3-2-2-13 自然環境類型区分表

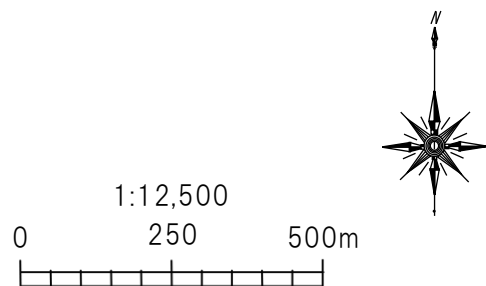
環境類型区分	植生区分
二次林	ヤナギ高木群落 (IV)
	シラカンバーミズナラ群落
	ニセアカシア群落
二次草原	オオヨモギ群落
耕作地等	畑雑草群落
牧草地等	牧草地
	ゴルフ場・芝地
市街地等	市街地
	緑の多い住宅地
	残存・植栽樹群をもった公園、墓地等
	造成地
	工場地帯
開放水域	開放水域



凡 例	
	事業実施想定区域
	影響想定地域(動物,植物,生態系)
	区 界
	現 発 寒 清 掃 工 場
	新工場建設候補地 (現西清掃事務所及び市道の一部)
	二 次 林
	二 次 草 原
	耕 作 地 等
	牧 草 地 等
	市 街 地 等
	開 放 水 域

図 3-2-2-7 自然環境類型区分図

※国土地理院発行の電子地形図 25,000 (オンデマンド版)の地形図(令和2年11月17日発行)を使用したものである。



b 重要な自然環境類型区分及び代表する生物種

地域を特徴づける6種の自然環境類型区分のうち、分布面積、生物の多様性及び連続性の観点から特に重要な類型区分として、表3-2-2-13の4区分を選定した。

また、これら重要な自然環境類型区分を代表する生物種について、文献資料及び既存の知見等の情報を表中に示した。

表3-2-2-13 重要な自然環境類型区分に代表される生物種

類型区分	二次林	二次草原	牧草地	開放水域
代表する生物種	●植物 ・カツラ ・キタコブシ	●植物 ・ススキ	●植物 ・オトコヨモギ	●植物 ・ガマ ・ノガリヤス
	●哺乳類 ・エゾタヌキ	●哺乳類 ・キタキツネ	●哺乳類 ・キタキツネ	●哺乳類 ・ドブネズミ
	●鳥類 ・アカゲラ ・キジバト	●鳥類 ・オオジシギ ・ベニマシコ	●鳥類 ・ヒバリ	●鳥類 ・アオサギ ・ハクセキレイ
	●爬虫類 ・ヒガシニホントカゲ	●爬虫類 —	●爬虫類 —	●爬虫類 —
	●両生類 ・ニホンアマガエル	●両生類 ・ニホンアマガエル	●両生類 ・ニホンアマガエル	●両生類 ・ニホンアマガエル
	●昆虫類 ・エゾハルゼミ ・オニヤンマ ・ミヤマクワガタ	●昆虫類 ・ハネナガフキバツタ ・キアゲハ ・モンシロチョウ	●昆虫類 ・ヒナバツタ ・ベニシジミ ・モンキチョウ	●昆虫類 ・アキアカネ ・シオカラトンボ ・センブリ ●魚類 ・ウグイ ・ドジョウ ●甲殻類 ・スジエビ ・ミズムシ(甲) ●貝類 ・サカマキガイ